リハビリテーション天草病院だより

2020年10月 No.96

発行　埼玉県越谷市平方343-1／(医)敬愛会広報委員会

巻 頭 言

当リハビリ病院の歩むべき道

リハビリテーション天草病院　院長　天草　弥生

皆様、コロナ禍で何かと不自由な生活を強いられておられることとご推察致します。今しばらく我慢を続けていただくことが収束に向けての近道かと思います。

さて、当院も開院45年目を迎え私か院長に就任してからも早２年半が経ちました。院長として成すべきことは何かについて日々考えて参りましたが今一度整理してみます。皆様からのご批評やご助言をいただければ幸甚に存じます。

「院長就任に当たっての抱負」で以前にも述べさせていただきましたが、当院は患者さんからも職員からも選ばれる病院作りを目標に、質の高いリハビリ医療を提供し、高い治療成績を残すことで、今日までリハビリ病院のトップを走り続けてきたと自負しております。しかし、時代は急速に変化し国の施策もあってリハビリ病院(病棟)過剰時代の幕開けを迎えました。競合超競争環境の中で、当院が更に成長し発展していくためにはどうすれば良いのでしょうか。競合病院との明確な差別化を図り、他が真似できない模倣困難性を追求し、持続的な競争優位性を達成するためのポジショニングを構築することが重要であることは以前に強調したとおりです。当院のリハビリ３本柱①ボバース概念を中心としたニューロリハビリ②高次脳機能障害に対するリハビリ③嚥下障害に対するリハビリをより強固なものにし、更に最新の治療法も柔軟に取り入れていく姿勢、「自分らしく生きる」リハビリの実施が大切であるという姿勢は不変です。以下に当院の歩むべき道を箇条的に記します。

ブランド特化のさらなる推進

①前方連携先との連携の推進

・急性期病院のニーズの把握と連携強化に向けた取り組み
・新たな連携強化策の試行および検証

②シームレスな退院支援と後方連携の強化

・患者･家族のニーズに応えた退院支援の推進
・退院後のリハビリサービスの充実
・後方連携先のニーズの把握と連携の推進

③質の高い医療･介護サービスの提供

・実績指数等の診療実績のレベルアップ
・患者･家族が納得･満足するサービスの提供推進
・地域に根差した活動の強化

④組織全体の課題達成能力の向上

・人材育成と自己啓発の推進
・緊密なチーム間の情報共有と連携の強化
・やり甲斐のある職場づくり

⑤研究活動の推進

・先端リハビリ技術に関する調査･研究
・ニューロリハビリ構築に向けた研究
・他部門・他施設との共同研究の推進

⑥業務効率の改善

・院内及び法人内各事業所間の業務連携推進
・リスク管理の強化と効果的な是正処置の実施
・院内のシステム化推進継続

「保健・医療・福祉」知識のひろば

リハビリにおけるチーム医療とは

リハビリテーション天草病院　総合企画部長　杉本　和哉

当院の回復期リハビリでは、医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士の他、近年は口腔ケアや嚥下機能の領域での連携強化を目的として、歯科医師、歯科衛生士なども加わり、多くの専門職種が１つのチームとなって、レベルの高いチーム医療を提供しております。

当院を含め、回復期のリハビリ病院では、「チーム医療」を謳っているところが多く見受けられますが、大きくは２つのタイプに分けられるように思います。

１つ目のタイプは、訓練室でのリハビリが主体の歴史あるリハビリ病院でよく見られるタイプです。病棟でのケアは看護師、歩行訓練は理学療法士、手の訓練は作業療法士といったように、個々の専門職の担当領域が決められ、その中で高い専門性を発揮できるというメリットがある一方で、職種間の連携が難しく、サービスに漏れ・抜けが生じやすいというデメリットもあるようです。

２つ目のタイプは、生活の場である病棟でのリハビリを重視した、新しいリハビリ病院でよく見られるタイプです。患者さんを中心に職種の垣根を越えて、お互いの専門領域に入り込んだサービスを提供できるメリットがありますが、それぞれの専門性が曖昧になりやすく、全体としてのレベルが上がりにくいというデメリットがあるようです。

職種毎に高い専門性を発揮しながら、緊密な連携を取り合い、総合力の高いチーム医療を提供していくことは理想ではありますが、その実現は容易なことではありません。

そこで今回は、当院が開設以来一貫して目指し積み重ねてきた、「理想のチーム医療」の実現に向けた取り組みの、基本的な考え方をご紹介したいと思います。

１つめは、全人的な視点に立った多職種に共通する治療概念を共有すること。（当院では“ボバース概念”を共有）

２つめは、その治療概念を基盤とした職種毎の専門性をより高めていくこと。（高いボバース講習会受講修了者割合）

３つめは、職種毎の専門性を尊重しながらも、お互いの領域に深く踏み込んだ高いレベルの連携関係を築くこと。（患者中心の成果を追い求めるケーススタディの実施）

出発点として最も重要なのが、１つめの治療概念の共有になります。これが無いと２つめの専門性の向上と３つめの連携関係強化の両立は難しくなります。

概念が共有されると、その上に築かれる専門性は同じ方向に向かいます。多種多様な治療技術や治療機器の導入においても、方向性を見失うことはありません。さらに、概念が共有されることで、職種の垣根を越えた連携も自然に行われるようになります。

リハビリ病院として半世紀近い歴史を刻んできた当院ですが、これからも理想のチーム医療を提供する回復期リハビリ病院を目指して、さらに進化を続けていきたいと考えております。

患者さん・ご家族からのお便り

「感謝」

さいたま市　島﨑 美南子

１月に大きな事故に遭い、急性期の病院で６度の手術を終えて、リハビリテーション天草病院にお世話になりました。手術後間もない転院であったため不安も大きくコロナ禍のため転院当日以外は家族と全く会えない中での入院生活でした。酷く落ち込んだこともありましたが、リハビリ担当者や看護師さん、介護士さんの支えがあり無事退院することが出来ました。「リハビリはつらいもの」という勝手な先入観がありました。しかし、決して無理をさせず、一人一人の体と心に常に対話しながらの施術は、私にとって大変安らぐ時間であり、着実に成果を体感できるものでした。何気ない会話の中にも先生方の真摯な姿や熱意が伺え、この方々なら私の腕や指、足の状態を改善してくれる・・・と100％信じ、毎回のリハビリを受けました。思うようにならない体や事故と手術の恐怖心、小学生の子供のこと、積み重ねてきた仕事がゼロになってしまったこと、涙や愚痴が出ることは数多くありました。そんな時に、リハビリをしながら私の気持ちにそっと寄り添ってくださったこと、心から感謝しています。また、担当外の先生からも「以前はスプーンだったけど、お箸で食べられるようになりましたね」「階段上がるの早くなりましたね」など声をかけて頂いたことで、病院内の多くの方々に支えられている、見守られている実感が沸き大変心強く感じました。天草病院の皆様がとても暖かく、親切に対応してくださったことで、長い入院生活を乗り越えることが出来ました。本当にありがとうございます。退院後、２週間経った今は、電車や自転車にも乗っています。まだ少し先であろう仕事復帰のため、市内のリハビリに週３回通いながら自主トレも頑張っています。

（投稿日　令和２年６月19日）

「素晴らしい病院に入院させて頂き感謝」

高萩市　藤沢 くら子

以前より頚椎・腰椎が悪く自宅近くの病院に通院しておりました。２月下旬、急な腰の痛みと足の痺れに自力で動くことも出来ずに救急車で病院に行きました。診断の結果、手術も出来ず痛みが和らいだら動くようにとのことでした。動くようにと言われたものの２週間以上動けずこのままの状態で終わりを迎えるのかと失望しておりました。その時、娘の住む埼玉のリハビリテーション天草病院に入院させて頂くことになりました。リハビリの先生方に毎日熱心に施術して頂き日に日に歩けるようになりました。さらに歩けるようになると退院後の生活に困らないよう自宅での色々な場面での身体の動かし方などを教えて頂きました。歩けるようになっただけでも有り難いと思っていましたがここまでしてくださることに感激でした。また、主治医の先生・病棟の看護師さん・介護士さんにも大変お世話になりました。こちらから訴えることなく身心の少しの変化にも気づいて声をかけて頂き何の不安もなく安心して入院生活を送ることが出来ました。皆様の心の温かさ優しさに大変感謝しております。退院後、不安なことも出てくるかと思いますが皆様のご指導を思い出しながら残された人生を過ごしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

（投稿日　令和２年５月19日）

「本当にありがとう」

越谷市　大熊 佐喜子

父、清は現在84歳。今まで大きな病気は一度もありませんでした。３月初めに脳梗塞、椎骨動脈解離で市立病院に救急搬送され、左半身が麻痺し、意識が朦朧としてSCUに一週間入りました。現実と夢の間を行きつ戻りつし、意識の失調があり今までの父からは想像もつかない姿になってしまいました。しばらくすると弱々しい発音で「家族が泊まり込んでそばにいて欲しい」と泣いてしまう程でした。栄養も口から摂れず、鼻からのチューブに頼っていました。トイレは歩行も出来ないのでオムツになり、私達家族も精一杯のお見舞いをして、出来ることはしてあげようと話し合っていました。左半身が自力で全く動かせなかったので、おばが毎日マッサージをしては時折ついでに抓ってみると「痛てて」と言える様になり「あら通じているね」と病室に少しずつ笑顔が戻って来ました。

急性期が一段落したため、リハビリのため天草病院へ転院させて頂くことになりました。しかし、まだ口からの食事は出来ずオムツを使用し車椅子での移動がやっとでした。ただ、言葉を少し話せる様になっていたので、どうしたいのかと言う本人の気持ちを伝えることが出来始めていました。数日後「携帯電話を病院に持って来て欲しい」と言うので「まだ使えないでしょ」と言うと「メールだから大丈夫」と言ったものの右手だけで打っていた様子でした。別の日には電話をかけて来て「リハビリが毎日あって疲れる」と報告があり気が付いたら「今日は、水を飲み込むテストに合格した」等、電話のたびに声が弾んで来ました。新型コロナウイルスの影響で、面会に行くことも出来なかったのですが、日々リハビリをして頂いたおかげで父は大いに回復していきました。ある日、「お世話になった先生が異動だから、お礼をしたいので何か準備をして欲しい」と言いました。そんな所まで気が回せる様になったのならもう大丈夫と確信しました。しかし気持ちは理解できるけど今の時代、先生方も遠慮なさると思うのでお礼はこの文章で代えさせて頂きたいと思います。

お陰様で５ヶ月の入院で手すりを使用するもほぼ自力で歩けるようになり、排泄も自立することが出来ました。食事が自分の口で出来るようになったことが最高の喜びです。これも日々、体調を見守ってくださった担当医の先生、退院の日に涙ぐみ鳥肌が立つ位頑張ったねと声をかけてくださった看護師さん。毎日、汗だくでリハビリに励んでくださったリハビリスタッフの皆さん。毎日、食事を作ってくださった栄養士・調理師さん。生活を守ってくださった介護士さん。丁寧な対応の事務の方、相談室の方。本当に、本当にありがとうございました。父に代わってお礼申し上げます。これからは家族と力を合わせて週３回のデイケア（シルバーケア敬愛）に通いながらリハビリを続け、趣味の野菜作りが出来ると良いなぁーと思っています。

（投稿日　令和２年９月７日）

感謝の声（投書箱より）

車椅子で入院し、これから先どうなることかと心配の毎日でした。それが今日こうして自分の足で立って歩いて帰れることはスタッフの皆様方のお陰だと、ただただ感謝しか御座いません。本当にありがとうございました。　（Ｃ病棟　入院患者様より）

院内の「人・施設・設備」ご紹介

ここ10年のリハビリスタッフ数の変遷

リハビリテーション天草病院　事務長　大塚　尚行

当院は1976年に開院し、まだリハビリテーションという言葉が認知されていない時代からリハビリ医療に注力し、今年で45年目を迎える埼玉県内では最も歴史のあるリハビリ病院であります。開院後まもなくリハビリスタッフ20数名を擁し、リハビリ専門病院としての形を整え、1988年には民間でいち早く『リハビリテーション』を病院名として名乗った病院でもあります。

2000年になると、介護保険制度が施行されると同時に施設基準として現在の回復期リハビリ病棟が創設されました。これはリハビリ医療が発展していく大きな転換期になりましたが、当院にとってはリハビリスタッフの育成と実績の積み重ねに長年努力してきたことが評価された年になったとも言えます。

その後も人口の高齢化が進むなか、リハビリ医療の必要性は高まっておりますので、ここ10年の当院の歩みをリハビリスタッフ数の変遷からたどってみたいと思います。

【リハビリスタッフ数】

	PT	OT	ST	合計
2010年	41名	37名	15名	93名
2015年	53名	50名	23名	126名
2020年	72名	60名	25名	157名

まず、10年前の2010年ですが、リハビリは量的評価として休日を含めた365日、患者さん１人１日あたり６単位以上（１単位20分）を提供することが求められました。当院は100名近い人員を整え、リハビリの高い提供実績に繋がっていきました。

その後、2015年頃には量的評価から質的評価へと大きく移っていき、回復期リハビリ病棟は診療報酬上、一定水準以上の質を基準に３区分にランク分けされました。当院はその数年前に研修施設を備えた別棟（研究棟）を竣工するなど、ますます研究活動にも力を入れ、医療水準の向上を図りながらリハビリスタッフも120名超に拡充していきました。

そして、現在の2020年においては回復期リハビリ病棟も細かく６区分にランク分けされ、リハビリテーションによる改善の程度を示す指標（実績指数）のハードルも上がるなど、更に質が求められる時代となっています。勿論、当院は最も高いランクに位置しております。リハビリスタッフも基準を大きく上回る150名超を配置するまでになり、また臨床経験７年以上のリハビリスタッフが約４割を占めるなど、質的にも高いレベルのリハビリ医療を提供できる体制が整っていると自負しております。

ここで主なリハビリ実績について、施設基準に対する当院の直近６カ月の実績を示しますと、実績指数40以上に対し54.9、重症患者改善率３割以上に対し６割以上、在宅復帰率７割以上に対し８割以上、経口摂取が困難な状態からの回復率３割５分以上に対し５割以上と高い治療実績に繋がっております。

このような変遷をたどり今の当院がありますが、これからも最高レベルのリハビリが提供できるよう研鑽を積んでまいりますので、今後も当院の展開にご期待ください。

関連施設だより

ケアマネジャーの仕事

指定居宅介護支援事業所シルバーケア敬愛　管理者　古河　順子

ケアマネジャーは、正式には「介護支援専門員」と言います。私たち「指定居宅介護支援事業所シルバーケア敬愛」は、2000年の介護保険制度の施行と同時に開設された事業所であり、長年の経験と実績を積み重ねた主任ケアマネジャーが５名所属しています。主任ケアマネジャーとは、５年以上の経験と定められた研修を修了した者が認定される上位資格となります。

ケアマネジャーの仕事は、大きく「介護支援サービスに関連する業務」と「要介護認定に関連する業務」に分けられますが、主は介護支援に関する業務でありますので、こちらを中心に説明します。

介護支援とは、ご家族が介護を必要とされる状況になった時、できる限り不安や負担を軽減することができるよう、介護に関しての相談に応じサポートすることであります。

要介護となった方が自宅で生活していくためには、ご家族の協力をはじめ、保健医療や福祉、介護サービス、地域の関わりなど、取り巻く様々な環境や状況を把握していかなければなりません。知識や経験を活かし、介護を必要とする方が「その人らしい生活」を送ることができるよう、お話を傾聴しながら支援内容を熟考し、最適なケアプラン（介護サービス計画書）を提案することであります。

介護支援の相談には様々なケースがありますので、主な例を紹介させていただきます。

【入院先からの退院時支援】

入院中からご本人・ご家族、医療関係者と連携し退院後の生活について検討を行います。住宅改修などを調整の上、退院時には整った環境で自宅での生活が再開できるよう様々な準備を事前に進めていきます。

【医療行為のある方・終末期の方】

主治医をはじめ医療従事者からの情報を基に、福祉用具の手配や医療・介護サービスの調整を行います。医療機関との連携を密に行いながら、安心して自宅での療養生活が送れるように支援します。

【一人暮らしの方や高齢者世帯の方】

孤立や介護の抱え込みがないよう、ご家族が仕事している場合や子育てを手助けしている場合などは介護負担で生活環境が悪化していかないよう、それぞれの事情に合わせ、介護保険以外の制度や社会資源なども考慮して、必要な支援を検討します。

ここまで主な例を紹介してきましたが、私たちケアマネジャーは、ケアプランを作成するだけではなく、介護支援に関わる各サービス提供事業所が同じ方向性で支援いただくよう、また必要な際は円滑に迅速な対応ができるよう、連絡調整の役割も担っていますので、ご安心ください。

最後になりますが、当事業所は、品質管理規格である『ISO9001』の認証も取得しており、地域の皆様から信頼され選ばれる質の高い事業所を目指しております。今後も皆様のお力になれるよう努力していきますので、どうぞお気兼ねなくご相談ください。

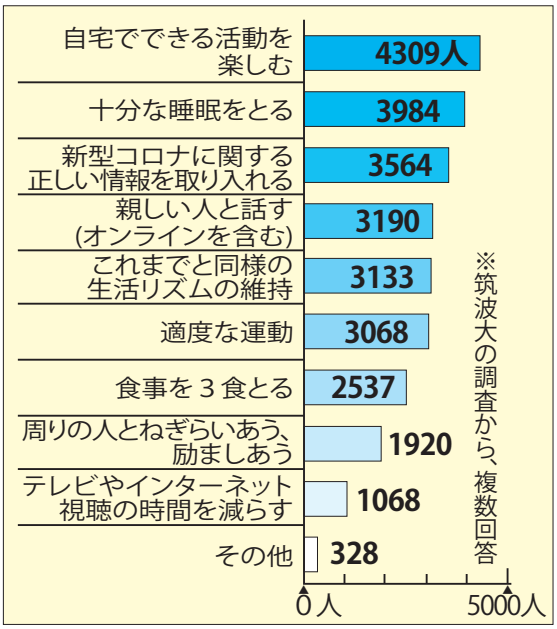
≪お問合せ先≫　TEL：048（979）1113

編集手帳

✻今年度も上半期が終了しましたが、この半年間の私は、頭の回転が鈍く仕事もはかどらず、日常生活にもメリハリがなく、何となく気分が晴れ晴れせず憂鬱な毎日が続き、余り意味のない人生を味わったような気がしてなりません。新型コロナウイルス感染症の流行が原因であることは確かです。いつまでこの状態が続くのか不安が不安を呼びます。

✻この感染症による生活様式の変化で、精神的不調やストレスを感じるようになった人が約４割に上ることが日本医師会の調査で明らかになりました。運動不足で体の不調を感じるようになった人も約２割に上ったとのことです。同感染症で生活に不安を感じていた人は８割を越えています。私の気分が毎日不安定であるのは決して例外ではないようです。

✻同感染症が精神面に与える影響は、筑波大の研究チームが行った調査の中間結果（８月４～10日、有効回答約７千人分）でも「ストレス感じた」が８割になったと産経新聞10月５日号は報じています。その中で「自粛中有効だった生活上の対処法」は下図のとおりだそうです。参考にして下さい。



（理事長天草大陸）

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ＩＳＯ」の認証を取得してます。

なお、老人保健施設でも「ＩＳＯ」の認定を受けています。

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

nqa. ISO 9001 Registered Quality Management

UKAS MANAGEMENT SYSTEMS 015

表紙のことば

新型コロナ対策による外部との接触制限の中、少しでも患者様に季節を感じて頂きたいと思いました。そこで、スタッフと一緒に沢山の紅葉を制作し、紙に散りばめました。色とりどりの紅葉に秋を感じながら、患者様の笑顔も見られ、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

（Ｂ病棟スタッフより）